



地域の 担い手として

一般社団法人
大磯町シルバー人材センター



大磯町シルバー人材センターは、高齢者が永年培った経験や知識を生かしながら、地域社会の中で働くことを通じて収入を得るとともに健康を保持し、生きがいを持ち、地域社会の担い手として積極的に貢献することをめざし、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき、国・県・町から助成・支援を受けて活動している組織（一般社団法人）です。

会員の皆さんは、就労の他に、公立学校等の清掃活動などのボランティア活動、放課後子ども教室や幼稚園児たちとの交流活動など地域社会の担い手として活躍されています。

センターで
働く



戸塚さんはセンターに入つて約10年。65歳で定年を迎え、その後の時間を持て余すならばやってみようと思つたといいます。

「元々盆栽が趣味だったので植木剪定を選択しました。私が仕事を始めて一年半くらい経つた時に、前に植木職人をしていた人がセンターに入ってきたんですよ。運よく、その人に植木剪定の指導を受けることができました。仕事を覚える環境としては時期的に恵まれていたと思います」と話します。

「植木の剪定で一番大変なのは高所作業です。高いところから落ちて怪我をしたとか色々な話を聞きます。ですから、長い梯子を使うときは木に縛つたり、下の部分が平らになるように板を敷いたり、安全を確認して仕事しています」



剪定を終えた木と戸塚さん

ふれあい収集 (見守り・ごみ出し支援)

生活支援の一環として3年前から新たに始まつた取組みが『ふれあい収集』です。一人でごみ出しをすることが困難な方に代わってごみ出しをする支援です。

坂元さんは、ふれあい収集を始めて2年。「パートを終え、何らかの形で社会に関わりたいと思い、始めました。普段は時間が取れないでボランティアは難しいですが、ふれあい収集は朝の少しの時間で、自分の生活の中で無理なく活動できます」と話します。

「重いごみをごみ置き場まで運ぶのに一苦労な方もいらっしゃると思います。ごみ出し一つですが、お役に立つのであればやつてみようと思いました」

センターの最高齢の猪狩さん。ふれあい収集が始まつた3年前から活動されています。当時82歳。「年取つてやることも無くてね」と、新しいことを始めるのに戸惑いは無かつたといいます。

坂元さん



猪狩さん



センターで ボランティア



事務局長 渡部 寛さん

子どもたちとの交流

センターは、高齢者に働く機会を提供する目的のほかに、地域社会貢献活動の一環として、園児とのサツマイモづくり、放課後子ども教室、世代交流イベントやチャレンジフェスティバルでの子どもたちとのふれあい交流、小中学校の清掃・植木剪定、募金活動など様々なボランティア活動を行っています。会員の皆さんも子どもたちとのふれあいやかわいい笑顔を見ることで元気をもらっています。



センターが より身近な存在に

代表理事 矢部 輝雄

私は今、71歳です。大磯町シルバー人材センターに入会して6年を超えますが、今年度、代表理事として就任いたしました。

当センターは、高齢者の皆さんのが就業機会の提供、生活支援（日常生活のお手伝い）、ボランティア活動を通した社会貢献などが求められており、会員一同、町民の皆さんに愛されるセンターをめざしています。また、当センターの運営にあたっては、何よりも会員の皆さんのが安全に就業できるよう最善を尽くしています。

高齢者の皆さん方が持つている豊かな知識や能力を生かし、大磯町の発展のため、一緒に働いていただける方をお待ちしています。



申込方法は次のページで